



北海道産食品の輸出促進を目指して

—苫小牧港発冷凍小口混載輸送の取り組み—

2020年5月11日

苫小牧埠頭株式会社

苫小牧埠頭株式会社（本社：北海道苫小牧市、代表取締役社長 橋本哲実）は、北海道の優れた農水産品や加工品等の輸出を一層拡大するため、苫小牧港利用促進協議会による支援を活用して、昨年度に続きシンガポール向けの冷凍小口混載輸送事業を継続します。

本事業は、苫小牧港が「食」の国際物流拠点化を目指すため、海上コンテナ1本に満たない小・中ロットの貨物や、航空運賃では割高となってしまうような道産食品に対し、苫小牧埠頭が所有する冷凍倉庫（3,500t）並びに新設する温度管理型冷凍冷蔵庫「北海道クールロジスティクスプレイス」を集約拠点とした冷凍小口混載輸送を実現し、低コスト運賃の提供と安定したコールドチェーンによって北海道の食の輸出促進を図るものです。

事業提携先として、シンガポール向けに実績のある株式会社プライム・ストリーム北海道による商流の確保と、ドライバー不足等による輸送力低下が著しい道内冷凍輸送を解決するため、道内各地に集荷・冷凍拠点を持つ株式会社ニチレイ・ロジスティクス北海道に加え、フォワーディングパートナーとして日本通運株式会社とも提携した冷凍 LCL サービスを提供します。

【冷凍小口混載輸出の概要】

項目	シンガポール向け
仕出し港	苫小牧港
仕向け港	SINGAPORE
期間	2020年5月～2021年3月
頻度	1回/月
温度帯	-25℃
海上輸送日数	約18日間

今後とも、食産業の成長を通じて「世界の北海道」と苫小牧港の発展に貢献する所存です。

以上